

# 福井県教員育成指標

自らの個性を発揮し、人生を切り拓くために  
挑戦し続ける人

## 福井の教育が目指す育てたい人間像

多様な人々の存在を認め、  
協働して新たな価値を生み出す人

ふるさとや自然を愛し、  
いっどこにいても社会や地域に貢献する人

## 福井が求める教師像

校種・教科等に関する  
専門的知識・実践的技能  
を持った人

専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、  
自立した社会人としての良識や  
幅広い視野を持った人

子どもたちはもとより、同僚や家庭、  
地域社会と円滑な人間関係を築き、  
課題に対して臨機応変に対応できる人

教育に対する情熱・使命感に  
燃え、常に学び続ける  
向上心を持った人

| 資質・能力                   | ステージ   | 福井県が求める採用時の姿  | 第1ステージ   |   |  | 第2ステージ                   |  |  | 第3ステージ                  |  |    | ステージ | 管理職                    |  |   |   |
|-------------------------|--|---|--|---|--|--------------------------|--|--|-------------------------|--|----|------|------------------------|--|---|---|
|                         |  |   | 教員としての基盤を固める   |   |  | 中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する |  |  | 経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする |  |    |      |                        | トップリーダーとして教育活動を推進する                                |   |   |
| 素養                      | 教育的愛情<br>使命感<br>責任感  | ・子どもに対する愛情<br>・教職への情熱   | ・子どもの個性を尊重し、夢と希望、豊かな人間性を育む熱意<br>・教職に対する使命感、誇り、責任感  | ・学校教育を牽引する使命感、責任感   | ・組織的な運営を行う使命感、責任感<br>・学校経営に積極的に参画する責任感   |                          |  |  |                         |  |    | 素養   | 教育的愛情<br>使命感<br>責任感    | ・将来を担う子どもの成長に資する使命感や責任感の深い自覚<br>・よりよい学校教育の実現に向けた努力 |   |   |
|                         | 倫理観<br>人間性<br>社会性  | ・高い人権意識<br>・豊かな人間性、広い視野<br>・社会人としての一般常識   | ・確かな人権感覚、子どもの模範となる倫理観<br>・人間的な魅力の涵養、信頼関係の構築(子ども、教職員、家庭、地域社会 など)<br>・謙虚な姿勢、法令の遵守、服務の誠実かつ公正な遂行<br>・市民としての役割の遂行と積極的な社会参画  |   |  |                          |  |  |                         |  |    |      | 素養                     | 倫理観<br>人間性<br>社会性                                  | ・豊かな人間性、広い視野、高い人権意識の醸成<br>・子どもや教職員の示範となる言動<br>・子ども、家庭、地域社会などとの信頼関係の構築 |   |
|                         | コミュニケーション力   | ・他者との意思の疎通と協働   | ・同僚性の構築、よりよい教育の実現に向けた教職員間の意思の疎通と共通理解、合意形成の推進<br>・子ども、家庭、地域社会などとの円滑な意思の疎通   |   |  |                          |  |  |                         |  |    |      |                        | 素養   | 判断力<br>学び続ける力<br>探究心  | ・明確な教育理念と省察による自己の職能の成長<br>◎正確で迅速な情報収集、整理、分析、共有(アセスメント)<br>・的確な判断を行う力<br>・教育情報や国の動向、時代の流れの的確な把握  |
|                         | 学び続ける力<br>探究心  | ・学びの専門家としての学び続ける意欲<br>・多様な社会体験への挑戦  | ・自ら学び続ける基盤の構築(課題の発見・解決の努力・省察する力)<br>・自主的な協働研究への積極的な参画  | ・専門性の深化とキャリアアップ<br>・学校内や専門分野における研究の牽引<br>・若手教員の指導への積極的な関わり  | ・自らの実践の深化と改善<br>・学校内や専門分野の組織的な研究の運営<br>・教職員の資質・能力を高める指導、助言   |                          |  |  |                         |  |    |      |                        |  | 素養  | 創造的に<br>思考する力<br>コミュニケーション力   |
| 学習指導                    | 教科等の専門性  | ・教科等を学ぶ意義の理解<br>・教科等で培う力の把握   | ・教科等において、多面的・多角的な視点での研究の推進と専門性の向上<br>・カリキュラムマネジメントの視点での研究の推進<br>・福井の未来の担い手となるために、教科等において、人間性を育む教育を推進<br>・幼・小・中・高を通じた学びの接続の視点での研究の推進<br>・子どもの主体的な学び、確かな学力、生きる力の追究                         |   |  |                          |  |  |                         |  |    | 素養   |                        |  |   | 業務改善<br>(働き方改革<br>に向けて)   |
|                         | 授業力  | ・教科等の基礎的な授業力<br>・主体的・対話的で深い学びへの理解<br>・探究的な学びの計画、立案  | ・教科等の特性や本質の理解<br>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた楽しくわかる授業<br>・多様な授業形態を取り入れた個別最適な学びや協働的な学びへの工夫<br>・主体的・対話的で深い学びへの工夫<br>・指導と評価の一体化に基づく実践<br>・子どもの学びの見取りの意義と実践<br>・校内研究への主体的な取組み、積極的な授業公開の実施            | ・省察をもとにした授業改善<br>・教科等の特性や本質の追究<br>・主体的・対話的で深い学びの実現<br>・多様な授業形態を工夫した個別最適な学びや協働的な学びの実現<br>・教科等横断的なカリキュラムデザイン<br>・校内研究の中核として授業実践を牽引<br>・若手教員への授業力を高める指導、助言 | ・広い視野での授業改善<br>・教科等の特性や本質を理解した実践<br>・主体的・対話的で深い学びの深化<br>・多様な授業形態を工夫した個別最適な学びや協働的な学びの深化<br>・資質・能力を培う授業の提案<br>・学校全体の授業力向上に係る企画<br>・学校内の中心で示範となる授業実践の推進<br>・校内研究の中心として組織を運営<br>・学校内外の教職員への指導、助言 |                          |  |  |                         |  | 素養 |      | 組織マネジメント               |  |   | ・学校環境の特性と課題の把握、学校運営のビジョンの明示<br>・学校評価を分析して学校運営のビジョンとスクールプランを策定する力<br>・スクールプランを実現する具体的な方策の決定<br>・組織運営に関わる内部及び外部環境の把握と強みを生かした戦略的な組織づくり<br>・一人一人の教職員が意欲を持って活動できる機会を構築、適性に応じた職務の分掌による組織運営<br>・家庭、地域と連携した学校づくり<br>・子どもの個性、特性に応じた指導、支援を徹底する組織づくり<br>・GiGAスクール構想の実現に向けたリーダーシップの発揮<br>・特別支援教育のコーディネート力の向上と組織的なインクルーシブ教育の推進 |
|                         | 福井の教育力を支える研究・連携  | ・福井の教育の特長の理解<br>・「ふるさと福井」を大切に思う心  | ・子ども自身がその個性に気づき伸ばしていけるような「引き出す教育」、学びを自ら進んで「楽しむ教育」を進めるための授業の実践的研究、協働による研究体制、同僚性の構築<br>・縦もち教科担任制の運営、教科の学びの系統性の構築<br>・幼・小・中・高の接続の視点を持った教育の推進<br>・研修や自主研究会への主体的な参画<br>・教員間の世代間交流による優れた教育力の継承 |   |  |                          |  |  |                         |  |    |      |                        | 素養   |   | 教職員理解<br>人材育成   |
|                         | ICTや情報教育データの活用   | ・ICT活用の理解<br>・ICT活用の技能  | ・授業でのICTや情報・教育データの積極的な活用<br>・生徒指導、校務など学校全体でのICTの積極的な活用の推進<br>・子どもの情報活用能力を育成する授業の工夫   |   |  |                          |  |  |                         |  |    |      |                        |  | 素養  | 学校安全<br>危機管理  |
| 特別な配慮を要する幼児・児童・生徒への対応   | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の基本的な知識   | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の理解、実践<br>・合理的配慮に対する理解、実践  | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の中核として実践を牽引<br>・子どもの個性、特性に応じたキャリア教育の推進  | ・チームの責任者として、子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育に関する組織的な対応の企画・調整と教職員への指導、助言<br>・関係機関と協働した課題の改善、解決   |  |                          |  |  |                         |  |    | 素養   | 財務管理                   |  |   | ・学校の実態に応じた計画的な教育環境整備と設備・備品等の充実<br>・事務職員と連携した予算の適正で計画的な執行管理  |
| 幼児・児童・生徒理解              | ・子どもたちの多様性を踏まえた、一人一人の子どもの理解の重要性の認識<br>・子どもの発達段階への理解<br>・一人一人に向き合う意識                      | ・子どもの個性、特性の理解<br>・インクルーシブ教育の視点を踏まえた、認め合い高め合う学級経営の実践   | ・学級および学年全体の子どもへの理解<br>・学年の生徒指導の中核として、子どもの個性、特性に応じた諸課題への対応  | ・組織的な学年経営と学校全体の子どもへの理解<br>・子どもの個性、特性に応じた組織的な生徒指導の企画、運営  |  |                          |  |  |                         |  | 素養 |      | 家庭や地域<br>社会との<br>連携・折衝 |  |   | ・スクールプランや学校評価の家庭や地域社会への効果的な発信と意見集約<br>・家庭や地域社会の学校への期待、関心の把握と教育活動への活用<br>・地域の教育資源の積極的な活用   |
| 幼児・児童・生徒に応じた支援課題への対応や支援 | ・子どもたちの多様性を踏まえた、個や集団への支援や指導についての理解<br>・一人一人の子どもに寄り添う態度、子どもの声に対する傾聴<br>・多様な子どもに対する寛容の心と態度 | ・子どもの個性や特性、課題に応じた支援や指導<br>・子どもの特性を理解した原因分析力<br>・学校の生徒指導の方針に対する理解<br>・報告・連絡・相談を通じたチームでの生徒指導の実践<br>・家庭などとの信頼関係の構築、連携・協働 | ・チームの中核として子どもへの適切な支援や指導<br>・子どもの個性、特性に応じた生徒指導方針を基にチームの中核として集団を牽引<br>・若手教員に対する適切な指導、支援<br>・家庭、地域社会などとの信頼関係の構築、連携・協働   | ・チームの責任者として教職員に対する指導、助言<br>・子どもの個性、特性に応じた組織的な生徒指導方針の立案<br>・チームの責任者として役割と責任を明確にした組織的な対応の企画・調整<br>・速やかな情報の共有と適切な管理<br>・家庭や地域、関係機関との連携・協働                  |  |                          |  |  |                         |  |    |      | 素養                     | 福井の力   |   | ・「ふるさと福井」への理解<br>・福井の教育をよりよくしていく心と態度  |
| 業務改善(働き方改革に向けて)         | ・効率的な時間管理に対する意識  | ・自己の勤務時間の管理<br>・PDCAサイクルを意識した、効率的、効果的な業務遂行の工夫<br>・業務効率化のための積極的なICT等の活用と推進   | ・チームの中核として、効率的、効果的な業務遂行の工夫<br>・校務分掌や学年活動における会議や行事等の精査と精選の提案と実践   | ・チームの責任者として、若手や中堅教員に対する働き方への示範と助言<br>・学校教育活動全体の精査と精選の具体的な提案と組織的な実践  |  |                          |  |  |                         |  |    |      |                        | 素養   | マネジメント・人材育成   | ・理想とする学級像の形成<br>・一人一人の子どもが活躍し、互いを認め合い安心してすごせる学級経営<br>・スクールプランの達成に向けた教職員の協働的な実践<br>・報告・連絡・相談による教職員間の協働   |
| 学級経営<br>学年経営<br>学校経営    | ・学校現場の現状の理解<br>・社会情勢(国際感覚・多様性)に対する理解   | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する理解  | ・学年のリーダーとして率先して協働的活動を牽引<br>・スクールプランの達成に向けて、中核として学校を牽引<br>・カリキュラムマネジメントを意識した協働的活動の牽引<br>・若手教員の抱える課題の理解、支援   | ・学級間、学年間の連携を意識した学校経営への参画<br>・スクールプランの達成に向けて学年や分掌の責任者としての組織的な運営<br>・カリキュラムマネジメントの視点での組織的な運営<br>・協働するネットワークの構築と指導、助言                                      |  |                          |  |  |                         |  |    | 素養   |                        |  | 人材育成  | ・様々な課題に対応する力<br>・学校内外の研修や自主研究への参画   |
| 社会の変化への対応               | ・学校現場の現状の理解<br>・社会情勢(国際感覚・多様性)に対する理解   | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する理解  | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する具体的な方策の提案と実践   | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する具体的な方策への指導、助言と組織的な実践  |  |                          |  |  |                         |  | 素養 |      |                        |  | 連携・協働   | ・仲間と協働して、創造する経験<br>・協働の良さを子どもに発信する力   |
| 学校安全<br>危機管理            | ・学校安全、危機管理に関する基礎的な知識、理解  | ・学級や集団の適切な安全管理<br>・勤務校の危機管理体制に対する理解   | ・チームの中核としての学校安全、危機管理上の課題への対処<br>・適切な安全管理、結果を予測した危機管理の徹底  | ・チームの責任者としての学校安全、危機管理のマネジメント<br>・学校の事件、事故の対処と未然防止に対する教職員への指導、助言<br>・校内研修、自主研究の企画、運営   |  |                          |  |  |                         |  |    |      | 素養                     |  | 福井の力  | ・「ふるさと福井」への理解<br>・福井の教育をよりよくしていく心と態度  |
| 人材育成                    | ・様々な課題に対応する力   | ・学校内外の研修や自主研究への参画   | ・若手教員に対する指導、助言   | ・校内研修、自主研究の企画、運営  |  |                          |  |  |                         |  |    |      |                        | 素養   | 福井の力  | ・「ふるさと福井」への理解<br>・福井の教育をよりよくしていく心と態度  |



# 福井県教員育成指標（養護教諭）

自らの個性を発揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人

## 福井の教育が目指す育てたい人間像

多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人

ふるさとや自然を愛し、いつでもどこにいても社会や地域に貢献する人

## 福井が求める教師像

校種・教科等に関する専門的知識・実践的技能を持った人

専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人

子どもたちはもとより、同僚や家庭、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人

教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

| 資質・能力       | ステージ                 | 福井県が求める採用時の姿                            |   |   | 管理職  |  |  |   |
|-------------|----------------------|---|---|---|--|--|--|---|
|             |                      | 第1ステージ<br>教員としての基盤を固める                  | 第2ステージ<br>中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する  | 第3ステージ<br>経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする   | ステージ   | 管理職<br>トップリーダーとして教育活動を推進する   |  |   |
| 素養          | 教育的愛情<br>使命感<br>責任感  | ・子どもに対する愛情<br>・教職への情熱                   | ・子どもの個性を尊重し、夢と希望、豊かな人間性を育む熱意<br>・教職に対する使命感、誇り、責任感   | ・組織的な運営を行う使命感、責任感<br>・学校経営に積極的に参画する責任感  | 素養   | 教育的愛情<br>使命感<br>責任感  | ・将来を担う子どもの成長に資する使命感や責任感の深い自覚<br>・よりよい学校教育の実現に向けた努力   |   |
|             | 倫理観<br>人間性<br>社会性    | ・高い人権意識<br>・豊かな人間性、広い視野<br>・社会人としての一般常識 | ・確かな人権感覚、子どもの模範となる倫理観<br>・人間的な魅力の涵養、信頼関係の構築(子ども、教職員、家庭、地域社会 など)<br>・謙虚な姿勢、法令の遵守、服務の誠実かつ公正な遂行<br>・市民としての役割の遂行と積極的な社会参画     |   |  | 倫理観<br>人間性<br>社会性  | ・豊かな人間性、広い視野、高い人権意識の醸成<br>・子どもや教職員の示範となる言動<br>・子ども、家庭、地域社会などとの信頼関係の構築                          |   |
|             | コミュニケーション力           | ・他者との意思の疎通と協働                           | ・同僚性の構築、よりよい教育の実現に向けた教職員間の意思の疎通と共通理解、合意形成の推進<br>・子ども、家庭、地域社会などとの円滑な意思の疎通  |   |  | 判断力<br>学び続ける力<br>探究心   | ・明確な教育理念と省察による自己の職能の成長<br>◎正確で迅速な情報収集、整理、分析、共有(アセスメント)<br>・的確な判断を行う力<br>・教育情報や国の動向、時代の流れの的確な把握 |   |
|             | 学び続ける力<br>探究心        | ・学びの専門家としての学び続ける意欲<br>・多様な社会体験への挑戦      | ・自ら学び続ける基盤の構築(課題の発見・解決の努力・省察する力)<br>・自主的な協働研究への積極的な参画   | ・専門性の深化とキャリアアップ<br>・学校内や専門分野における研究の牽引<br>・若手教員の指導への積極的な関わり  |  | ・自らの実践の深化と改善<br>・学校内や専門分野の組織的な研究の運営<br>・教職員の資質・能力を高める指導、助言         | 創造的に思考する力<br>コミュニケーション力  | ・幅広い教養と高い専門性、幅広い視点で、新たなものを創造する力<br>・教職員との日常的な意見交換や情報共有をもとにしたよりよい民主的な職場環境の構築<br>◎教職員同士および学校と家庭、地域、関係機関の相互作用による教育力の最大化(ファシリテーション)   |
| 指 導 力       | 養護教諭の専門領域            | 保健管理                                    | ・児童生徒の健康状態等の把握と保健管理に関する基礎的な知識   | ・児童生徒の心身の疾病や障害に対する理解と適切な対応  | ・保健管理の組織的対応について校内の連携体制を整備  | 学校経営者としての専門性(経営・組織マネジメント)  | 業務改善(働き方改革に向けて)  | ・教職員の勤務時間の把握<br>・勤務時間を意識した教職員の働き方の徹底と職場環境の構築<br>・教職員の業務の明確化と外部人材活用、外部業務委託の推進<br>・PTAや地域の理解を得るための取組  |
|             |                      | 保健教育                                    | ・養護教諭の専門性や学習指導要領に関する基礎的な知識・技能   | ・自校の保健教育の計画立案に参画し、児童生徒に指導   | ・児童生徒の実態に基づいた保健教育を実践   |  | 組織マネジメント   | ・学校環境の特性と課題の把握、学校運営のビジョンの明示<br>・学校評価を分析して学校運営のビジョンとスクールプランを策定する力<br>・スクールプランを実現する具体的な方策の決定<br>・組織運営に関わる内部及び外部環境の把握と強みを生かした戦略的な組織づくり<br>・一人一人の教職員が意欲を持って活動できる機会の構築、適性に合った職務の分掌による組織運営<br>・家庭、地域と連携した学校づくり<br>・子どもの個性、特性に応じた指導、支援を徹底する組織づくり<br>・GIGAスクール構想の実現に向けたリーダーシップの発揮<br>・特別支援教育のコーディネート力の向上と組織的なインクルーシブ教育の推進 |
|             |                      | 健康相談                                    | ・児童生徒の発達段階に伴う疾患及び健康相談に関する基礎的な知識   | ・健康相談のプロセスを理解し、児童生徒の健康課題について、教職員と連携、早期対応  | ・児童生徒の健康課題について、保護者や専門家と連携し、校内相談体制を整備   |  | 教職員理解<br>人材育成  | ◎教職員の資質・能力や適性の把握とキャリアパスへの助言<br>・目標管理票と面談、報告・連絡・相談を通じた教職員の現状の把握と業務に対する的確な指導<br>・教職員の持ち味や新しいアイデア等の学校運営への活用<br>・教職員とのコミュニケーションと同僚性、協働性を高める人材育成<br>◎対話に基づく主体的な研修受講奨励  |
|             |                      | 保健組織活動                                  | ・保健組織活動に関する基礎的な知識   | ・教職員及び学校三師と連携し、保健組織活動の企画、運営に参画  | ・効果的な保健組織活動を実践し、適切に評価、改善   |  | 学校安全管理   | ・安全な環境での教育活動の展開<br>・生徒指導上の問題行動の未然防止に対する教職員への指導、助言および適切な対応<br>・学校安全マニュアルの遵守、施設の点検、安全管理の検証、徹底<br>・危機管理マニュアルに基づき、トップリーダーとして校内組織と関係諸機関との連絡、調整<br>・地域社会との協力関係の構築、危機管理体制の整備   |
|             |                      | 保健室経営                                   | ・養護教諭の役割及び保健室の機能に関する基礎的な知識  | ・児童生徒の健康課題に応じた保健室経営計画を立案、実践   | ・児童生徒の健康課題に応じ、校内組織を活かした保健室経営を実践  |  | 財務管理   | ・学校の実態に応じた計画的な教育環境整備と設備・備品等の充実<br>・事務職員と連携した予算の適正で計画的な執行管理  |
|             | 共通                   | ICTや情報・教育データの利活用                        | ・ICT活用の理解<br>・ICT活用の技能  | ・授業でのICTや情報・教育データの積極的な活用<br>・生徒指導、校務など学校全体でのICTの積極的な活用の推進<br>・子どもの情報活用能力を育成する授業の工夫                                    |  | 家庭や地域社会との連携・折衝   | ・スクールプランや学校評価の家庭や地域社会への効果的な発信と意見集約<br>・家庭や地域社会の学校への期待、関心の把握と教育活動への活用<br>・地域の教育資源の積極的な活用        |   |
|             |                      | 特別な配慮を要する幼児・児童・生徒への対応                   | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の基本的な知識  | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の理解、実践<br>・合理的配慮に対する理解、実践  | ・チームの責任者として、子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の中核として実践を牽引<br>・子どもの個性、特性に応じたキャリア教育の推進                                     |  |  |   |
|             |                      | 幼児・児童・生徒理解                              | ・子どもたちの多様性を踏まえた、一人一人の子どもの理解の重要性の認識<br>・子どもの発達段階への理解<br>・一人一人に向き合う意識   | ・子どもの個性、特性の理解<br>・インクルーシブ教育の視点を踏まえた、認め合い高め合う学級経営の理解   | ・学級および学年全体の子ども理解<br>・学年の生徒指導の中核として、子どもの個性、特性に応じた諸課題への対応  |  |  |   |
|             |                      | 幼児・児童・生徒に応じた支援課題への対応や支援                 | ・子どもたちの多様性を踏まえた、個や集団への支援や指導についての理解<br>・一人一人の子どもに寄り添う態度、子どもの声に対する傾聴<br>・多様な子どもに対する寛容の心と態度                                  | ・子どもの個性や特性、課題に応じた支援や指導<br>・子どもの特性を理解した原因分析力<br>・学校の生徒指導の方針に対する理解<br>・報告・連絡・相談を通じたチームでの生徒指導の実践<br>・家庭などとの信頼関係の構築、連携・協働 | ・チームの中核として子どもへの適切な支援や指導<br>・子どもの個性、特性に応じた生徒指導方針を基にチームの中核として集団を牽引<br>・若手教員に対する適切な指導、支援<br>・家庭、地域社会などとの信頼関係の構築、連携・協働 |  |  |   |
|             |                      | 業務改善(働き方改革に向けて)                         | ・効率的な時間管理に対する意識   | ・自己の勤務時間の管理<br>・PDCAサイクルを意識した、効率的、効果的な業務遂行の工夫<br>・業務効率化のための積極的なICT等の活用と推進   | ・チームの中核として、効率的、効果的な業務遂行の工夫<br>・校務分掌や学年活動における会議や行事等の精査と精選の提案と実践   | ・チームの責任者として、若手や中堅教員に対する働き方への示範と助言<br>・学校教育活動全体の精査と精選の具体的な提案と組織的な実践 |  |   |
| マネジメント・人材育成 | 学級経営<br>学年経営<br>学校経営 | ・学校における組織的な取組の理解                        | ・一人一人の子どもが活躍し、互いを認め合い安心してすごせる学級経営の理解<br>・スクールプランの達成に向けた教職員の協働的な実践<br>・報告・連絡・相談による教職員間の協働                                  | ・スクールプランの達成に向けて、中核として学校を牽引<br>・カリキュラムマネジメントを意識した協働的な実践<br>・若手教員の抱える課題の理解、支援   | ・学級間、学年間の連携を意識した学校経営への参画<br>・スクールプランの達成に向けて分掌の責任者としての組織的な運営<br>・カリキュラムマネジメントの視点での組織的な運営<br>・協働するネットワークの構築と指導、助言    |  |  |   |
|             | 社会の変化への対応            | ・学校現場の現状の理解<br>・社会情勢(国際感覚・多様性)に対する理解    | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する理解  | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する具体的な方策の提案と実践  |  |  |  |   |
|             | 学校安全<br>危機管理         | ・学校安全、危機管理に関する基礎的な知識、理解                 | ・学級や集団の適切な安全管理<br>・勤務校の危機管理体制に対する理解   | ・チームの中核としての学校安全、危機管理上の課題への対処<br>・適切な安全管理、結果を予測した危機管理の徹底   | ・チームの責任者としての学校安全、危機管理のマネジメント<br>・学校の事件、事故の対処と未然防止に対する教職員への指導、助言  |  |  |   |
|             | 人材育成                 | ・様々な課題に対応する力                            | ・学校内外の研修や自主研究への参画   | ・若手教員に対する指導、助言  | ・校内研修、自主研究の企画、運営   |  |  |   |
| 連携・協働       | 組織における協働             | ・仲間と協働して、創造する経験<br>・協働の良さを子どもに発信する力     | ・教職員間の同僚性の構築<br>・チームで対応することへの理解と実践  | ・ミドルリーダーとしての自覚と積極的な行動<br>・チームの中核として教員集団を牽引してチームで対応する力を向上  |  |  |  |   |
|             | 家庭や地域社会との連携          | ・地域社会に貢献する経験<br>・地域社会の中で子どもを育成する意義の理解   | ・家庭、地域社会、関係機関との連携・協働のネットワークの形成<br>・家庭、地域社会への積極的な情報発信と良好なコミュニケーションの構築  |   |  |  |  |   |
| 福井の力        | 「ふるさと福井」の教育          | ・「ふるさと福井」への理解<br>・福井の教育をよりよくしていく心と態度    | ・福井の教育の充実に向けて、「ふるさと福井」を学び続ける態度と自己啓発力(「ふくい愛」)の向上<br>・「ふるさと福井」独自の教材づくりと活用した授業の実践(「ふるさと福井の先人 100人」「古典音読・暗唱ノート」「郷土新聞」「NIE」など) |   |  |  |  |   |

「◎」は特に校長に関すること



# 福井県教員育成指標（栄養教諭）

自らの個性を發揮し、人生を切り拓くために  
挑戦し続ける人

## 福井の教育が目指す育てたい人間像

多様な人々の存在を認め、  
協働して新たな価値を生み出す人

ふるさとや自然を愛し、  
いっどこにいても社会や地域に貢献する人

## 福井が求める教師像

校種・教科等に関する  
専門的知識・実践的技能  
を持った人

専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、  
自立した社会人としての良識や  
幅広い視野を持った人

子どもたちはもとより、同僚や家庭、  
地域社会と円滑な人間関係を築き、  
課題に対して臨機応変に対応できる人

教育に対する情熱・使命感に  
燃え、常に学び続ける  
向上心を持った人

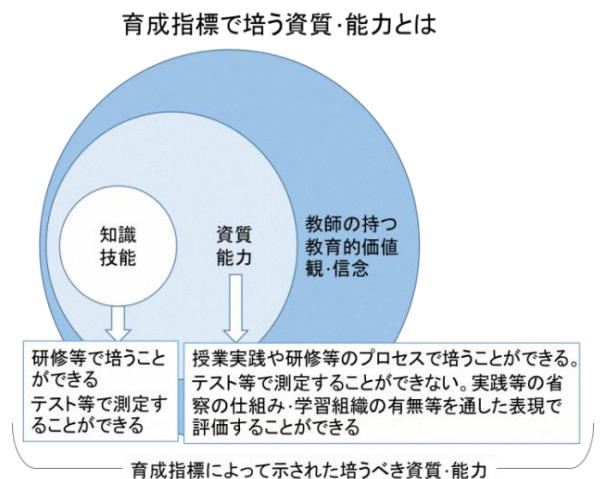
| 資質・能力       | ステージ                | 福井県が求める<br>採用時の姿  | 第1ステージ  |  |   | 第2ステージ                       |  |  | 第3ステージ  |  |  | ステージ   | 管理職<br>トップリーダーとして<br>教育活動を推進する  |                |   |   |  |  |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |
|-------------|---------------------|---|---|--|---|------------------------------|--|--|---|--|--|--|---|----------------|---|---|--|--|--|--------|--|------------------------------------|---|--|--|--------------------------|---|
|             |                     |   | 教員としての基盤を固める  |  |   | 中堅教員・ミドルリーダーとして<br>教育活動を牽引する |  |  | 経験を生かして指導・助言し、<br>組織的な運営をする   |  |  |  |   |                |   |   |  |  |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |
| 素<br>養      | 教育的愛情<br>使命感<br>責任感 | ・子どもに対する愛情<br>・教職への情熱   | ・子どもの個性を尊重し、夢と希望、豊かな人間性を育む熱意<br>・教職に対する使命感、誇り、責任感                         | ・子どもの個性を尊重し、夢と希望、豊かな人間性を育む熱意<br>・学校教育を牽引する使命感、責任感  | ・組織的な運営を行う使命感、責任感<br>・学校経営に積極的に参画する責任感  | 素<br>養                       | 教育的愛情<br>使命感<br>責任感  | ・将来を担う子どもの成長に資する使命感や責任感の深い自覚<br>・よりよい学校教育の実現に向けた努力 | 素<br>養  | 倫理観<br>人間性<br>社会性  | ・高い人権意識<br>・豊かな人間性、広い視野<br>・社会人としての一般常識  | ・確かな人権感覚、子どもの模範となる倫理観<br>・人間的な魅力の涵養、信頼関係の構築(子ども、教職員、家庭、地域社会 など)<br>・謙虚な姿勢、法令の遵守、サービスの誠実かつ公正な遂行<br>・市民としての役割の遂行と積極的な社会参画                | ・豊かな人間性、広い視野、高い人権意識の醸成<br>・子どもや教職員の示範となる言動<br>・子ども、家庭、地域社会などとの信頼関係の構築 | 素<br>養         | コミュニケーション力  | ・他者との意思の疎通と協働   | ・同僚性の構築、よりよい教育の実現に向けた教職員間の意思の疎通と共通理解、合意形成の推進<br>・子ども、家庭、地域社会などとの円滑な意思の疎通 | ・自らの実践の深化と改善<br>・学校内や専門分野の組織的な研究の運営<br>・教職員の資質・能力を高める指導、助言   | ・明確な教育理念と省察による自己の職能の成長<br>◎正確で迅速な情報収集、整理、分析、共有(アセスメント)<br>・的確な判断を行う力<br>・教育情報や国の動向、時代の流れの的確な把握 | 素<br>養 | 学び続ける力<br>探究心  | ・学びの専門家としての学び続ける意欲<br>・多様な社会体験への挑戦 | ・自ら学び続ける基盤の構築(課題の発見・解決の努力・省察する力)<br>・自主的な協働研究への積極的な参画 | ・専門性の深化とキャリアアップ<br>・学校内や専門分野における研究の牽引<br>・若手教員の指導への積極的な関わり | ・自らの実践の深化と改善<br>・学校内や専門分野の組織的な研究の運営<br>・教職員の資質・能力を高める指導、助言 | ・創造的に思考する力<br>コミュニケーション力 | ・幅広い教養と高い専門性、幅広い視点で、新たなものを創造する力<br>・教職員との日常的な意見交換や情報共有をもとにしたよりよい民主的な職場環境の構築<br>◎教職員同士および学校と家庭、地域、関係機関の相互作用による教育力の最大化(ファシリテーション) |
|             | 栄養教諭の専門領域           | 給食管理<br>学校給食の栄養管理   | ・学校給食の役割に関する基礎的な知識<br>・学校給食実施基準に基づいた献立作成への理解                              | ・児童生徒の栄養摂取状況を把握し、地域や学校の特色に応じた献立の作成   | ・児童生徒の栄養摂取状況を分析し、家庭や教職員等と連携した栄養管理の実践  |                              | ・児童生徒の栄養摂取状況分析方法や、適切な栄養管理について若手教員等に指導・助言                                       | 素<br>養   |   | 給食管理<br>学校給食の衛生管理  | ・衛生管理の基礎的な知識と理解  | ・学校給食衛生管理基準に基づいた日常点検等について、調理従事員に指導・助言  | ・学校給食施設に応じた衛生管理の改善について、教職員、調理従事者等に指導・助言                               |                | ・学校給食における衛生管理に関して、地域レベルで関係者に対し指導・助言   | 素<br>養  | 業務改善<br>(働き方改革に向けて)  | ・教職員の勤務時間の把握<br>・勤務時間を意識した教職員の働き方の徹底と職場環境の構築<br>・教職員の業務の明確化と外部人材活用、外部業務委託の推進<br>・PTAや地域の理解を得るための取組 |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |
|             |                     | 給食の時間・各教科等  | ・学習指導要領に基づいた学校における食育に関する基礎的な知識  | ・児童生徒の食に関する実態を把握し、食に関する指導の全体計画の立案に参画、ならびに指導や情報提供   | ・児童生徒の食に関する実態から課題を把握し、食育を学校全体で組織的に推進  |                              | ・児童生徒の食に関する課題、地域の実状等をもとに、家庭と連携した地域レベルでの食育を推進                                   |  |   | 素<br>養   | 個別の相談指導  | ・個別の相談指導の基本的なプロセスに関する基礎的な知識<br>・食に関する健康課題(偏食、肥満・痩身、食物アレルギー等)への理解   | ・教職員、保護者と連携し、児童生徒の食に関する健康課題に応じた指導                                     |                | ・教職員、保護者と連携し、児童生徒の食に関する健康課題に応じた個別取組プランの作成、実践  |   | ・児童生徒の食に関する健康課題について、専門医等の関係機関と連携し、実態に即した指導・助言                            | 素<br>養   | 組織マネジメント   |        | ・一人一人の教職員が意欲を持って活動できる機会の構築、適性に応じた職務の分掌による組織運営<br>・家庭、地域と連携した学校づくり<br>・子どもの個性、特性に応じた指導、支援を徹底する組織づくり<br>・GIGAスクール構想の実現に向けたリーダーシップの発揮<br>・特別支援教育のコーディネート力の向上と組織的なインクルーシブ教育の推進 |                                    |   |  |  |                          |   |
|             | 共通                  | ICTや情報教育データの活用  | ・ICT活用の理解<br>・ICT活用の技能  | ・授業でのICTや情報・教育データの積極的な活用<br>・生徒指導、校務など学校全体でのICTの積極的な活用の推進<br>・子どもの情報活用能力を育成する授業の工夫                                       | ・授業でのICTや情報・教育データの積極的な活用<br>・生徒指導、校務など学校全体でのICTの積極的な活用の推進<br>・子どもの情報活用能力を育成する授業の工夫                          |                              | ・チームの責任者として、子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の中核として実践を牽引<br>・子どもの個性、特性に応じたキャリア教育の推進 | 素<br>養   |   |  | 特別な配慮を要する幼児・児童・生徒への対応  | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の基本的な知識<br>・合理的配慮に対する理解、実践  | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の中核として実践を牽引<br>・子どもの個性、特性に応じたキャリア教育の推進   |                | ・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の中核として実践を牽引<br>・子どもの個性、特性に応じたキャリア教育の推進   | ・チームの責任者として、子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育に関する組織的な対応の企画・調整と教職員への指導、助言<br>・関係機関と協働した課題の改善、解決 | 素<br>養   |  | 教職員理解<br>人材育成  |        | ◎教職員の資質・能力や適性の把握とキャリアパスへの助言<br>・目標管理票と面談、報告・連絡・相談を通じた教職員の現状の把握と業務に対する的確な指導<br>・教職員の持ち味や新しいアイデア等の学校運営への活用<br>・教職員とのコミュニケーションと同僚性、協働性を高める人材育成<br>◎対話に基づく主体的な研修受講奨励           |                                    |   |  |  |                          |   |
| 幼児・児童・生徒理解  |                     | ・子どもたちの多様性を踏まえた、一人一人の子どもの理解の重要性の認識<br>・子どもの発達段階への理解<br>・一人一人に向き合う意識 | ・子どもの個性、特性の理解<br>・インクルーシブ教育の視点を踏まえた、認め合い高め合う学級経営の理解                       | ・学級および学年全体の子どもへの理解<br>・学年の生徒指導の中核として、子どもの個性、特性に応じた諸課題への対応  | ・組織的な学年経営と学校全体の子どもへの理解<br>・子どもの個性、特性に応じた組織的な生徒指導の企画、運営  | 素<br>養                       | 幼児・児童・生徒に応じた支援課題への対応や支援  |  | ・子どもたちの多様性を踏まえた、個や集団への支援や指導<br>・一人一人の子どもに寄り添う態度、子どもの声に対する傾聴<br>・多様な子どもに対する寛容の心と態度 | ・子どもの個性や特性、課題に応じた支援や指導<br>・子どもの特性を理解した原因分析力<br>・学校の生徒指導の方針に対する理解<br>・報告・連絡・相談を通じたチームでの生徒指導の実践<br>・家庭などとの信頼関係の構築、連携・協働    | ・チームの中核として子どもへの適切な支援や指導<br>・子どもの個性、特性に応じた生徒指導方針を基にチームの中核として集団を牽引<br>・若手教員に対する適切な指導、支援<br>・家庭、地域社会などとの信頼関係の構築、連携・協働 | ・チームの責任者として教職員に対する指導、助言<br>・子どもの個性、特性に応じた組織的な生徒指導方針の立案<br>・チームの責任者として役割と責任を明確にした組織的な対応の企画・調整<br>・速やかな情報の共有と適切な管理<br>・家庭や地域、関係機関との連携、協働 | 素<br>養  | 学校安全<br>危機管理   | ・安全な環境での教育活動の展開<br>・生徒指導上の問題行動の未然防止に対する教職員への指導、助言および適切な対応<br>・学校安全マニュアルの遵守、施設の点検、安全管理の検証、徹底<br>・危機管理マニュアルに基づき、トップリーダーとして校内組織と関係諸機関との連絡、調整<br>・地域社会との協力関係の構築、危機管理体制の整備 |   |  |  |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |
| マネジメント・人材育成 | 業務改善<br>(働き方改革に向けて) | ・効率的な時間管理に対する意識   | ・自己の勤務時間の管理<br>・PDCAサイクルを意識した、効率的、効果的な業務遂行の工夫<br>・業務効率化のための積極的なICT等の活用と推進 | ・チームの中核として、効率的、効果的な業務遂行の工夫<br>・校務分掌や学年活動における会議や行事等の精査と精選の提案と実践   | ・チームの責任者として、若手や中堅教員に対する働き方への示範と助言<br>・学校教育活動全体の精査と精選の具体的な提案と組織的な実践  |                              | 素<br>養   | 学級経営<br>学年経営<br>学校経営                               | ・学校における組織的な取組の理解  | ・一人一人の子どもが活躍し、互いを認め合い安心してすごせる学級経営の理解<br>・スクールプランの達成に向けた教職員の協働的な実践<br>・報告・連絡・相談による教職員間の協働                                 | ・スクールプランの達成に向けて、中核として学校を牽引<br>・カリキュラムマネジメントを意識した協働的活動の牽引<br>・若手教員の抱える課題の理解、支援                                      | ・学級間、学年間の連携を意識した学校経営への参画<br>・スクールプランの達成に向けて分掌の責任者としての組織的な運営<br>・カリキュラムマネジメントの視点での組織的な運営<br>・協働するネットワークの構築と指導、助言                        |   | 素<br>養         | 学校安全<br>危機管理  | ・学校の実態に応じた計画的な教育環境整備と設備・備品等の充実<br>・事務職員と連携した予算の適正で計画的な執行管理                                |  |  |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |
|             | 社会の変化への対応           | ・学校現場の現状の理解<br>・社会情勢(国際感覚・多様性)に対する理解                                | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する理解                                  | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する具体的な方策の提案と実践   | ・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する具体的な方策への指導、助言と組織的な実践  | 素<br>養                       |  | 学校安全<br>危機管理                                       | ・学校安全、危機管理に関する基礎的な知識、理解   | ・学級や集団の適切な安全管理<br>・勤務校の危機管理体制に対する理解  | ・チームの中核としての学校安全、危機管理上の課題への対処<br>・適切な安全管理、結果を予測した危機管理の徹底  | ・チームの責任者としての学校安全、危機管理のマネジメント<br>・学校の事件、事故の対処と未然防止に対する教職員への指導、助言  | 素<br>養  |                | 財務管理  | ・学校の実態に応じた計画的な教育環境整備と設備・備品等の充実<br>・事務職員と連携した予算の適正で計画的な執行管理                                |  |  |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |
| 連携・協働       | 組織における協働            | ・仲間と協働して、創造する経験<br>・協働の良さを子どもに発信する力                                 | ・教職員間の同僚性の構築<br>・チームで対応することへの理解と実践  | ・ミドルリーダーとしての自覚と積極的な行動<br>・チームの中核として教員集団を牽引してチームで対応する力を向上   | ・チームの責任者として同僚性が発揮できる職場環境の構築   |                              | 素<br>養   | 家庭や地域社会との連携  | ・地域社会に貢献する経験<br>・地域社会の中で子どもを育成する意義の理解   | ・家庭、地域社会、関係機関との連携・協働のネットワークの形成<br>・家庭、地域社会への積極的な情報発信と良好なコミュニケーションの構築   | ・チームの責任者として同僚性が発揮できる職場環境の構築  | 素<br>養   |   | 家庭や地域社会との連携・折衝 | ・スクールプランや学校評価の家庭や地域社会への効果的な発信と意見集約<br>・家庭や地域社会の学校への期待、関心の把握と教育活動への活用<br>・地域の教育資源の積極的な活用   |   |  |  |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |
|             | 福井の力                | 「ふるさと福井」の教育   | ・「ふるさと福井」への理解<br>・福井の教育をよりよくしていく心と態度                                      | ・福井の教育の充実に向けて、「ふるさと福井」を学び続ける態度と自己啓発力(「ふくい愛」)の向上<br>・「ふるさと福井」独自の教材づくりと活用した授業の実践(「ふるさと福井の先人100人」「古典音読・暗唱ノート」「郷土新聞」「NIE」など) | ・「ふるさと福井」を学び続ける態度と自己啓発力(「ふくい愛」)の向上<br>・「ふるさと福井」独自の教材づくりと活用した授業の実践(「ふるさと福井の先人100人」「古典音読・暗唱ノート」「郷土新聞」「NIE」など) | 素<br>養                       |  | 福井の力   | ・「ふるさと福井」への理解<br>・福井の教育をよりよくしていく心と態度  | ・福井の教育の充実に向けて、「ふるさと福井」を学び続ける態度と自己啓発力(「ふくい愛」)の向上<br>・「ふるさと福井」独自の教材づくりと活用した授業の実践(「ふるさと福井の先人100人」「古典音読・暗唱ノート」「郷土新聞」「NIE」など) | ・「ふるさと福井」を学び続ける態度と自己啓発力(「ふくい愛」)の向上<br>・「ふるさと福井」独自の教材づくりと活用した授業の実践(「ふるさと福井の先人100人」「古典音読・暗唱ノート」「郷土新聞」「NIE」など)        |  | 素<br>養  | 福井の力           | ・「ふるさと福井」への理解<br>・福井の教育をよりよくしていく心と態度  |   |  |  |  |        |  |                                    |   |  |  |                          |   |

## 1 福井県教員育成指標の基本的な考え方

- ・グローバル化、情報化の進展等、社会が急速に変化するとともに先行き不透明で予測困難な時代が到来する中で、これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開や、学校現場の諸課題への対応力を図るためには、教員は変化を前向きに受け止め、自律的かつ継続的に学び続けることが必要である。
- ・本県においては、教育行政の指針を定めた「教育に関する大綱」の基本理念として、「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり～子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育の推進～」を掲げるとともに、子どもの個性を「引き出す教育」や好奇心や探究心を持って学びを自ら進んで「楽しむ教育」を推進している。また、本県が育成することを目指す人間像として次の三つの姿を示している。
  - 自らの個性を發揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人
  - 多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人
  - ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人
- ・教員については、採用時から教職生活全体を通じて「学び続ける人」であることを求めており、その具体的な姿は次の通りである。
  - 校種・教科等に関する専門的知識・実践的スキルを持った人
  - 専門分野に偏らない幅広い教養を身に付け、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人
  - 子どもたちはもとより、同僚や保護者、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人
  - 教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

- ・そこで県では、福井県教員育成指標（以下「指標」という。）を示し、これからの教員に求められる資質・能力を具体的に例示した。示した資質・能力は、研修等で直接習得することのできる知識・技能と、直接的な教示では習得が難しい、授業や研修のプロセスの中で培われる資質・能力とから構成されている。

- ・特に、直接的に教示することでは習得が難しい資質・能力の中には、学習指導要領が示す「思考力・判断力・表現力」のように知識・技能の習得に関連して培われるものもあれば、「学びに向かう力」のように教員の持つ教育的な価値観や信念との連関の中で育まれるものもあり、その幅は広い。（上図参照）





- ・教員の資質・能力を育成するためには、研修の中で習得される最新の教育情報や知識・技能が、日々の実践の中で再確認されることが必要である。そのためには、それぞれの研修の中で、個々の実践に基づく振り返りの機会や、研修参加者が自分の実践と自らの教育的価値観等と突き合わせる機会を設けるとともに、研修相互の関係を明らかにした一体的な研修体系にすることが不可欠である。
- ・指標で示したステージは、採用時よりおよそ10年ごとを目安として設定している。まず、「福井県が求める採用時の姿」を示した上で、第1ステージは、「教員としての基礎を固める時期」、第2ステージは「中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する時期」、第3ステージを「経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする時期」として位置づけた。
- ・それぞれのステージでは、そのステージに応じて身に付け、発揮されるべき資質・能力がある。例えば、管理職として人材育成能力、危機管理能力などは必要不可欠な能力であるが、このような能力は、管理職段階になって急に育成されるものではない。初任段階からの道のりの中で習得された知識・技能を基に、絶え間ない振り返りを繰り返すことで、資質・能力として身に付くものである。

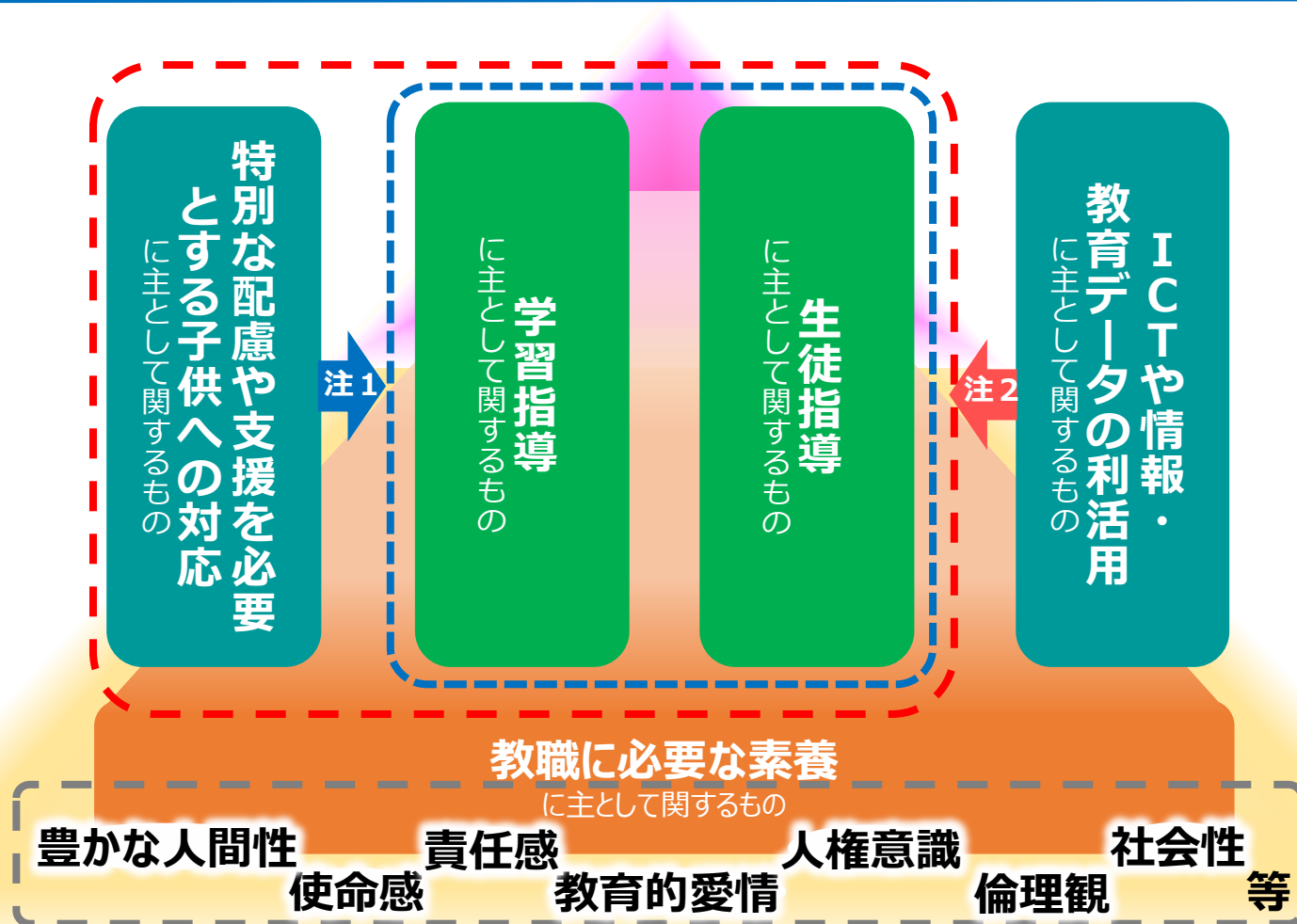
## 2 福井県教員育成指標の活用について

- ・今回示した指標を活用することによって、教員それぞれの適性や状況と、求められる資質・能力の関係を把握することができる。また指標で示されたキャリアステージと資質・能力の関係を踏まえて、一人一人の教員が他者の実践事例も学ぶことで、他者の経験を自己の経験に意味づけて膨らませながら自らのPDCAサイクルを回すことができる。



- ・また、学校や研修における教員の資質・能力の育成のためのPDCAサイクルの成果は、絶えず育成指標の再構築に結びつかなければならない。そのためには教育総合研究所を中心に、教員研修を行う各機関や各大学が、年度ごとに指標に基づいた研修成果の検証を行うとともに、その検証に基づいて次年度の教員研修計画の作成と育成指標の見直しを組織的に行うこととする。（上図参照）
- ・指標を一つの指針として、関係機関が連携することに加え、校長のリーダーシップの下で校内研修を充実させ、学校の教員集団を学び合う専門職集団にすることが、教師の資質・能力を培う基盤となる。

# 公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針 に基づく教師に共通的に求められる資質の具体的内容



※ 上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

注1) 「特別な支援・配慮を必要とする子供への対応」は、「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとしての位置付け

注2) 「ICTや情報・教育データの活用」は、「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に行うための手段としての位置付け

## 教職に必要な素養 に主として関するもの

- ・「令和の日本型学校教育」を踏まえた新しい時代における教育、学校及び教職の意義や社会的役割・服務等を理解するとともに、国内外の変化に合わせて常に学び続けようとしている。
- ・豊かな人間性や人権意識を持ち、他の教職員や子供達、保護者、地域住民等と、自らの意見も効果的に伝えつつ、円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築することができる。
- ・学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し、組織の中で自らの役割を果たそうとしている。
- ・自身や学校の強み・弱みを理解し、自らの力だけでできないことを客観的に捉え、家庭・地域等も含めた他者との協力や関わり、連携協働を通じて課題を解決しようとする姿勢を身に付けている。
- ・子供達や教職員の生命・心身を脅かす事故・災害等に普段から備え、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を備えている。

## 学習指導 に主として関するもの

- ・関係法令、学習指導要領及び子供の心身の発達や学習過程に関する理解に基づき、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業を創造することができる。
- ・カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点をもって、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に学校の実態に応じて改善しようとしている。
- ・子供の興味・関心を引き出す教材研究や、他の教師と協働した授業研究などを行いながら、授業設計・実践・評価・改善等を行うことができる。
- ・各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている。

## 生徒指導 に主として関するもの

- ・子供一人一人の特性や心身の状況を捉え、良さや可能性を伸ばす姿勢を身に付けている。
- ・生徒指導の意義や原理を理解し、他の教職員や関係機関等と連携しつつ、個に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論（心理・福祉に関する基礎的な知識を含む。）を理解し、子供一人一人の課題解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、学校生活への適応や人格の成長への援助を行うことができる。
- ・キャリア教育や進路指導の意義を理解し、地域・社会や産業界と連携しながら、学校の教育活動全体を通じて、子供が自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。
- ・子供の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況を踏まえながら、子供達との信頼関係を構築するとともに、それぞれの可能性や活躍の場を引き出す集団づくり（学級経営）を行うことができる。

## 特別な配慮や支援を 必要とする子供への対応 に主として関するもの

- ・特別な配慮や支援を必要とする子供の特性等を理解し、組織的に対応するために必要となる知識や支援方法を身に付けるとともに、学習上・生活上の支援の工夫を行うことができる。

## ICTや情報・ 教育データの利活用 に主として関するもの

- ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを効果的に活用するとともに、児童生徒等の情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための授業実践等を行うことができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、児童生徒等の学習の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。

注)記述量と必要な学修量とは、必ずしも比例しない。